



公益財団法人日本ユニセフ協会協定地域組織
佐賀県ユニセフ協会通信 (No. 110) uniwish40号 (2022年8月)
佐賀県佐賀市水ヶ江四丁目2番2号
(電話・FAX) 0952-28-2077
(業務時間) 月・火・木・金 10:00~15:00
E-mail unicef-saga@ams.odn.ne.jp
ホームページ <http://www.saga-unicef.jp/>
facebook <http://www.facebook.com/unicef>



“ウクライナに平和を”

ウクライナ危機
6カ月で、子ども1,000人が死傷
＜ユニセフ事務局長声明＞

【2022年8月22日ニューヨーク発】 戦闘激化から半年

毎日5人以上の子ども死傷

ウクライナでの戦闘が6か月経過する中、国連は2月以降、ウクライナの約1,000人の子どもたちが暴力によって死亡または負傷したことを確認しました。

明かになったのは以下の状況です

- この6カ月の間、毎日平均およそ5人の子どもが死傷しています。
- 362人の子どもが死亡。うち女の子が149人、男の子が175人、性別不明の子どもが38人。
- 負傷した子ども610人。うち女の子が172人、男の子が236人、性別不明の子どもが202人。

国連が記録した民間人の死傷者の多くは、子どもを含め、人口密集地での空爆、ミサイル、重火器など、爆発性兵器の使用によるものです。被害を受けた子どもの中には、非常に重篤な怪我や精神的苦痛に苦しむ子どもが多くいます。視力、聴力、手足を失う場合もあり、またほとんどすべての子どもが、重要かつ持続的な心理社会的支援を必要としています。

10校に1校が攻撃を受ける

一方、攻撃で子どもが殺されたり、身体的に傷つけられたりする恐ろしさに加えて、ウクライナのほぼすべての子どもが、深い苦しみを伴うできごとを目の当たりにしており、暴力から逃れてきた子どもたちは、家族の離散、暴力、虐待、性的搾取、人身売買などの大きな危険にさらされています。ウクライナ教育システムは、国中で激化する戦闘行為によって壊滅的な打撃を受けています。学校が標的にされたり、紛争当事者に利用されたりした結果、家族が安心して子どもを学校に通わせることができなくなりました。私たちは、ウクライナの10校に1校が損傷または破壊されたと推定しています。

必要なのは平和

ユニセフは、ウクライナにおける即時停戦と、すべての子どもたちを危険から守るよう訴え続けています。これには、人口密集地での爆発性兵器の残忍な使用や、民間施設やインフラへの攻撃の中止を含みます。ウクライナの子どもたちは、安全、安定、安心して学べる環境、子どもの保護サービス、心理社会的支援を緊急に必要としています。しかし、ウクライナの子どもたちにとって何より必要なのは、平和です。



ウクライナ緊急募金

500万人以上の子どもが
今すぐの人道支援を必要としています

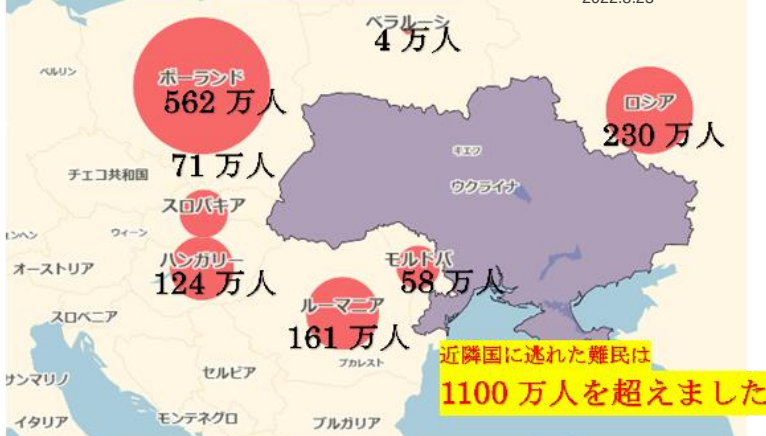
© UNICEF/UN059593/Moldovan



© UNICEF/UN0643725/Lviv Territorial Medical Union Hospital

4月に起きたクラマトルスク駅への攻撃で、両足を失った11歳のヤナさん。リヴィウの病院で治療を受け、容体は回復に向かっている。
(ウクライナ、5月12日撮影)

近隣国に逃れたウクライナ難民の数 国連難民高等弁務官事務所 (UNHCR) 資料
2022.8.23



unicef の主な支援

命を救う緊急救援
(医療機器を運ぶ医師達)



子どもの安全が最優先
(難民受け入れセンターで子どもを守る)



未来に希望をつなぐ支援
(避難所に緊急用の教育キットを届ける)

★「アフリカの角」・・・紛争、干ばつ、飢きん、食料の高騰 ～度重なる危機に直面する子どもたち～

【2022年8月14日 ソマリア発】

「アフリカの角」と呼ばれるソマリア、エチオピア、ケニアなどを含む広い地域が今、過去40年間で最悪の干ばつに見舞われています。この地域で暮らす180万人以上の子どもたちが、命を脅かす深刻な急性栄養不良のために緊急の治療を必要としています。



© UNICEF/UN0591440/Taxta
ソマリアのドローの避難民キャンプで、ユニセフの支援で受け取った穀物で、家族のための食事をつくるファドゥマ・アブディ・ノールさん(37)と子どもたち。



©UNICEF/UN0644288/Fazel
重度の急性栄養不良のイブラヒム

* 急性栄養不良の状態が深刻な地域
【アフリカの角】地域

* 干ばつが深刻な地域【サヘル】地域



第8回アフリカ開発会議(TICAD8)は、8月27日から2日間、チュニジアで開かれた。日本政府が主導するTICAD8は、経済・社会・平和と安定を重点に、アフリカ自身を中心となるかたちでの発展を後押しする。アフリカ各国政府や国際機関、民間セクターなどが一堂に会する。サイドイベントでユニセフ事務所職員からの報告があった。

【TICADで報告】

2022-08-8 アフリカ 環境

「アフリカの角」で過去40年で最悪の干ばつが発生、1000万人以上の子どもが食料・水不足

日本ユニセフ協会と国連児童基金（UNICEF）東京事務所は8月8日、「TICAD8サイドイベント：危機下にあるアフリカの子どもたちのために」をオンラインで開催した。登壇したUNICEF東部・南部アフリカ地域事務所の鈴木恵理・子ども保護専門官は、エチオピアやソマリアを含む「アフリカの角」地域で大規模な干ばつが起きていることについて「過去40年で最悪（食料不足と水不足が）少なくとも1000万人の子どもに影響を及ぼしている」と懸念を示した。

干ばつに伴う食料・水不足を補うためUNICEFは、栄養治療食や水タンク、浄水剤を「アフリカの角」に暮らす人たちに届け始めた。（©日本ユニセフ協会/2022）

小麦の92%が露とウクライナから

「アフリカの角」で起きている大規模干ばつは、複合的な問題で深刻化した点で特徴的だ。鈴木氏は、具体的に「気候変動」と「ウクライナ情勢」を挙げた。

ロシアのウクライナ侵攻で食料が値上がりし、「アフリカの角」では食料の確保が困難な状態が続く。地域事務所職員の小杉氏も「ケニアでは今年の4月から7%のインフレが起きている。特に生活に苦しんでいるのは貧困層だ」と指摘する。また、小麦の92%をロシアとウクライナからの輸入に頼っていたソマリアでも影響は必至だと伝えた。

8/23～9/1は「世界水週間」 サヘル地域でも進む干ばつ、水不足

【2022年8月23日ニューヨーク／ナイロビ（ケニア）／ダカール（セネガル）発】

8月23日からの世界水週間に際し、ユニセフ(国連児童基金)は、深刻な栄養不良と水に起因する感染症のリスクが重なるアフリカの角とサヘル地域に緊急に支援をおこなわなければならない、壊滅的な数の子どもが死亡する恐れがあると警鐘を鳴らしました。

サヘル地域でも進む干ばつ

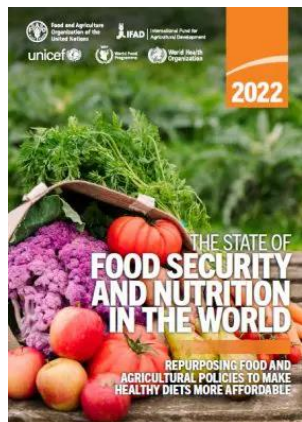
ブルキナファソ、チャド、マリ、ニジェール、ナイジェリアでは、干ばつ、紛争、治安の悪化により水不足に陥り、4,000万もの子どもが水に対する脆弱性が高い、または、極めて高い状況にあります。世界保健機関(WHO)の最新のデータによれば、不衛生な水や衛生設備が原因で亡くなる子どもの数は、サヘル地域が世界で最も多くなっています。

昨年だけでも、西部と中部アフリカでは過去6年間で最悪のコレラの流行が起これ、そのうち中央サヘルでは5,610件の感染、170人の死亡を確認しました。

© UNICEF/UN0640809/Dejongh
井戸から水を汲む子どもたち。(ブルキナファソ、2022年5月撮影)



© UNICEF/UN0688716/Dejongh
嘔吐と下痢の症状があり、病院で栄養補助食を口にする生後8カ月のフォージアちゃん。(ニジェール、2022年8月15日撮影)



2022年度版
『世界の食糧安全保障
と栄養の現状』



【年次報告 2021】

2022年度版《食料安全保障 最新報告書》 世界で8億2,800万人が飢餓に直面、新型コロナ流行 以来、1億5,000万人増加と驚異的数字を報告した。

ユニセフ(国連児童基金)、国連食糧農業機関(FAO)、国際農業開発基金(IFAD)、国連世界食糧計画(国連WFP)、世界保健機関(WHO)が共同で本日発表した2022年版の『世界の食料安全保障と栄養の現状』報告書では、健康的な食生活に必要なコストや価格に関する最新の推計値を含む、世界各国の食料安全保障と栄養の状況についての最新情報を紹介しています。

【2022年7月8日ローマ／ニューヨーク発】

- ・2030年までにあらゆる形態の飢餓、食料不安、栄養不良をなくすという目標に対し、国際社会は遠ざかる一方です。その事実を裏付ける新たな国連報告書によると、世界全体で飢餓の影響を受けている人の数は、新型コロナウイルス感染症(COVID-19)のパンデミックが発生してから1億5,000万人増加し、2021年には8億2,800万人に達しました。
- ・2021年には、約23億人(世界人口の29.3%)が中度または重度の食料不安に陥り、COVID-19のパンデミック発生前と比較して、3億5,000万人増加しました。また、9億2,400万人近く(世界人口の11.7%)が深刻なレベルの食料不安に直面しており、過去2年間で2億700万人増加しました。
- ・今後、たとえ世界経済の回復を考慮したとしても、2030年にも引き続き6億7,000万人近く(世界人口の8%)が飢餓に直面すると予測されています。この数字は、「持続可能な開発のための2030アジェンダ」を基に、飢餓、食料不安、栄養不良をなくすという目標が設定された2015年の数字とほぼ変わっていません。



◎ UNICEF/UN0649389/Rutherford
北東部モロトの外來治療センターで、上腕計測メジャーを使った栄養検査を受ける1歳のアカルちゃん。「赤」が示され、重度の栄養不良と診断された。
(ウガンダ、2022年5月撮影)

みなさまが支えたユニセフの活動(年次報告2021)

みなさまが支えた
ユニセフの活動

国内編

数字で見る国内事業の成果

募金活動

2021年度募金総額

237億 2,310万円

啓発・アドボカシー活動

学校向けユニセフ活動資料の送付

全国**52,621校・園**

学校等でのユニセフ授業(オンライン含む)

受講した児童・生徒 **32,199名**

広報活動

報道機関向け情報発信
(プレスリリース)

227本

報道露出
(新聞、雑誌、TV)

2,656件



国内編／年次報告2021

ユニセフ募金に取り組んだ学校・園

年間10万米ドル以上のご支援(法人)

全国**8,628校・園**

10団体
25企業

外国コイン募金

2,270万円相当

オンライン募金「フレンドネーション」

募金ページ立ち上げ**900件以上**



ユニセフセミナー・研修を受けた先生

702名



子ども向けSDGs学習サイト

総閲覧数 **1,350万回**

SDGs学習副教材の配布

全国中学3年生対象 **126万部**

公式ホームページ
ニュース記事掲載
250本

オンラインイベント動画

総視聴回数
7,000回

YouTube投稿動画

年間視聴回数**277万回**



皆さんから募金を預かり、
発展途上国の子ども達
を支援する活動に使いま
す。



日本の子ども達の権利を
守るため、また、子ども達
をめぐる課題から子どもを
守るために政策提言等を
しています。



ユニセフの活動を知って
もらうために、テレビや新聞、
インターネットなどで広報
をしています。学校への出
前授業等もしています。



- 5月3日(火) 118回 有田陶器市会場での街頭募金活動10:00~13:00
 *「ウクライナ緊急支援」のための募金活動
 *今右衛門窯店舗前にて
 *新型コロナ禍のためユニセフスタッフ6名



諫早社会福祉協議会様



有田陶器市 募金



- 5月9日(月) 諫早社会福祉法人
 諫早社会福祉協議会様より11:30
 使用済み切手 20箱 81kg 寄贈
 <諫早社会福祉協議会>

- 5月13日(金) 伊万里実業高校募金贈呈13:00
 *伊万里実業高校 農林キャンパス
 *「フードプロジェクト部」の皆さん
 *手作りお菓子の販売で
 「ウクライナ支緊」

お菓子の販売の様子
 部員による手作り



伊万里実業高等学校様



- 5月14日(土) 「宮城県人会さ」様からユニセフ[ウクライナ緊急募金]
 10:00~11:00 <佐賀県ユニセフ協会事務所>

- 5月16日(月) (株) 田口電機工業様からユニセフ募金贈呈
 10:00~ <田口電機工業 応接室>
 *「ウクライナ緊急支援」 } 合計
 * ユニセフ通常募金 } ¥300,000円



田口電機工業様



宮城県人会さ様

- 5月30日(火) 長崎市立小ヶ倉中学校 平和学習 出前授業 14:00~15:00 (5校時)
 *中学3年生 57人 (総合的な学習の時間)
 *テーマ:『世界な平和を考える』 <学年共有スペース>



高志館高等学校様



小ヶ倉中学校様

- 6月10日(金) 高志館高等学校生徒会の皆様から
 「ウクライナ緊急支援」募金贈呈
 13:00 <高志館高等学校 校長室>

- 6月15日(水) コープさが生協様よりユニセフ募金贈呈
 13:30 <佐賀新聞社 応接室>
 【2022年度のユニセフ募金緊急支援 送付先】
 ★東ティモール指定募金(3月)
 ★自然災害緊急 トンガ沖大規模噴火・津波緊急募金 } 合計
 ★ウクライナ緊急募金 } ¥4,707,894円



コープさが生協様

- 6月16日(木) 上峰町立上峰小学校 ボランティア委員会の皆さんから
 「ユニセフ募金」贈呈 13:00 <上峰小学校 家庭科室>



上峰小学校様

- 6月22日(水)、29日(水) 神崎市ドリームパーク 出前授業 15:20~16:40
 *神崎市立神崎小学校 夢組 21人
 *神崎市立神崎小学校 星組 21人
 *テーマ:『やってみようボランティア』
 ~使用済み切手の整理~



神崎小学校ドリームパーク様



牛津小学校様

- 7月1日(金) 小城市立牛津小学校 出前授業 平和学習 (総合的な学習の時間)
 *テーマ:「平和について考えよう」~世界の子どもたちとユニセフ~
 *6年生2クラス 74人 5・6時間目 13:45~15:20

- 7月7日(木) 武雄市立西川登小学校 出前授業 SDGs学習 (総合的な学習の時間)
 *テーマ:「SDGsについて知ろう」~自分たちにできることをしよう~
 *6年生 12人 3時間目 10:35~11:20



西川登小学校様

- 7月13日（水）佐賀県立小城高等学校 2年生 2グループ（8人）

* SDGs 調べ学習で事務所訪問

Aグループ4人 「水と衛生について」

Bグループ4人 「平和について」



小城高校生徒様

- 7月15日（金）嬉野市立久間小学校出前授業 平和学習 （総合的学習の時間）

* 「平和な未来にするために」～世界の子どもたちとユニセフ～

* 5・6年生 2クラス 55人 5・6時間目（13：40～15：20）



久間小学校様

- 7月17日（日）「ユニセフシアター」と講話 【詳細は P6に掲載】

①講話「もし 私がなんみんになったら。」 AARjapan 佐賀事務所長 大室和也 氏

② ユニセフ・シアター 『ラジオ・コパニ』映画上映

③ パネル展示 「アグネスアジア親善大使シリア周辺国訪問」

- 7月20日（水）武雄市立東川登小学校 「平和集会」出前授業

* 「世界の平和と子どもたち」

* 1年生から6年生 90人 3時間目 10：15～11：00

＜東川登小学校 体育館＞



東川登小学校様

- 7月27日（木）武雄市立武雄小学校 ユニセフ募金贈呈 14：00 ＜武雄小学校 校長室＞

* 運営委員の児童の皆さんが「ユニセフの募金ポチ袋」で呼びかけ



武雄小学校様

- 8月5日（金）～8月9日（火）第31回 佐賀市平和展 ～語り継ごう、平和の尊さ～

* 佐賀県ユニセフ協会からは「地雷レプリカ」と「ウクライナに平和を」映写【詳細は P7に掲載】

- 8月9日（火）雲仙市立小浜中学校 「平和集会」

* 「世界の平和を考える」 各教室でのオンライン講話

* 中学1年生～中学3年生 135人 9：50～11：45



小浜中学校様

- 8月19日（金）佐賀県立致遠館高等学校 1年生 SDGs 学習で事務所訪問

Aグループ4人 「飢餓・貧困について」

Bグループ2人 「アフリカの教育について」



致遠館高校生徒様

- 8月23日（火）佐賀子ども劇場様から「ウクライナ緊急支援」募金贈呈

* 『子ども夜市』での収益金の一部を

ユニセフ「ウクライナ緊急支援」に寄贈

* 「ユニセフと世界の子どもたち」ミニ講話



佐賀子ども劇場様



ご支援
ありがとうございます

コープさが生活協同組合様、佐賀県立伊万里実業高等学校フードプロジェクト部様、宮城県人会さが様、母子草様、田口電機工業株式会社様、佐賀県立高志館高等学校様、上峰町立上峰小学校様、国際ソロプチミスト佐賀西部様、小城市立岩松小学校様、武雄市立武雄小学校様、平尾建築コンサルタント事務所様、佐賀ギター音楽院様、川副地区民生児童委員互助会様、佐賀子ども劇場「子ども夜市」様

諫早社会福祉法人諫早社会福祉協議会様、佐賀県婦人地域連絡協議会様、コープさが新栄店様、日本赤十字社佐賀県支部様、佐賀市立図書館様、唐津市民病院きたはた様、市民活動プラザ様、佐賀市環境部循環型社会推進課3R推進係様、佐賀リハビリテーション病院様、唐津土建工業様、佐賀県県民協働課様、大塚製薬K、K様、佐賀大学医学部基礎研究棟様、栗山医院様

（順不同：2022年5月1日～2022年8月30日）

※ いろいろな形でのご支援ご協力に心から感謝申し上げます。

個人の皆さま方からもたくさんのご支援ご協力をいただいておりますが、この欄でのご紹介は学校・企業・団体様等のみにさせていただきました。

募金や使用済切手、使用済インクカートリッジなどの
ご支援、ありがとうございます。



ユニセフシアターと講話

②「ラジオ・コバニ」2016年作品

要予約
入場無料

① AARJapan (認定NPO法人 難民を助ける会)

佐賀事務所 所長 大室和也 氏 講話
『もし私がなんみんになったら。』

★期日 2022年7月17日(日)13:30~15:30 (開場13:10)

★会場 佐賀市立図書館 2階 多目的室
(佐賀市天神3丁目2-15 TEL 0952-40-0001)

★定員 60名 (コロナ感染予防のため人数制限)

【後援】 佐賀県・佐賀県教育委員会・佐賀市・佐賀市教育委員会・佐賀新聞社・西日本新聞社・朝日新聞社
【予定】 毎日新聞社・読売新聞社・読売新聞社・NHK佐賀放送局・サガテレビ・エフエム佐賀・NHKラジオ佐賀
【問い合わせ先】 佐賀県ユニセフ協会 TEL 0954-8064 佐賀市本町4丁目2番2号 TEL/FAX 0952-28-2077《2022 ユニセフ・シアター》
『AAR Japan 講話』 & 『ラジオ・コバニ』上映

※ 2021年7月18日(日)

13:30~16:00

※ 会場: 佐賀市立図書館
多目的ホール

参加者数 67人

オンラインで講話を
する大室和也さん

- ①講話『もし 私がなんみんになったら。』モルドバからオンラインで実施
AARJapan (NPO法人 難民を助ける会) 佐賀事務所 所長 大室和也 氏
- ② ユニセフ・シアター 『ラジオ・コバニ』映画上映
- ③ パネル展示 アグネスアジア親善大使 シリア周辺国訪問
～シリア難民の子ども達を「失われた世代」にしないために～

※新型コロナ禍の中、佐賀県ユニセフ協会主催で人気の「ユニセフ・シアター」を今年も実施することができました。

◆AARJapan難民を助ける会は1979年に立ち上がり、現在、世界の69を超える国で活動をされています。2011年から難民の数が急増し、今1億人を超えるとも話されました。そんな中、大室さんは7月に急遽、ウクライナ支援の出張が入られ、講演当日はモルドバからオンラインで現状報告をしてくださいました。実際に食糧や服などの支援をしている様子やウクライナの人々が先の見えない不安と全てを無くしてきた喪失感から声をかけられないほど悲しみを抱えていると感じたことも話されました。また、シリア事務所勤務の経験から、2011年から始まったシリア紛争は、「21世紀最大の人道支援」と言われるほどで、今なお厳しい避難生活を強いられている人々についても詳細な資料をもとに話されました。『ラジオ・コバニ』に繋がる話でした。

◆《「ラジオ・コバニ」のあらすじ》シリア北部のクルド人街コバニは、過激派組織「イスラム国」(IS)の占領下となるも、クルド人民防衛隊による激しい迎撃と連合軍の空爆支援により、2015年1月に解放されました。人々はコバニに戻って来ましたが、戦闘で街の大半が瓦礫となりました。そんな中、20歳の大学生ディロバンは、友人とラジオ局を立ち上げ、ラジオ番組「おはようコバニ」の放送をはじめ、生き残った人々や、戦士、詩人などの声を届け、街を再建して未来を築こうとする人々に希望と連帯感をもたらす。

◆映像の中には、瓦礫の中で最初に行われた作業がISの遺体の収容作業でした。生々しい映像や実際の戦争の映像もあり、正視するのもつらい部分がありました。ただ、そんな中で人々が、ラジオから流れる故郷の歌や人々の声に癒され、辛い中にも日常を取り戻しつつ、少しずつ希望を持ち、たくましく復興をしていく姿は心を打つものがありました。



【講話や映画を熱心に見る参加者】



市立図書館と高校インターアクト部や佐賀大学の皆さんの手伝いがありました



【「ユニセフ・シアター」のスタッフ 集合写真】

* 皆さんの感想 *

『もし わたしがなんみんになったら』 感想

- 自分が知らないことを知るといのはあらためて大事なことで思いました。当たり前のことが当たり前じゃなくなるというのはすごく恐ろしいと感じました。(10代)
- モルドバで支援活動中の大室さんの話を聞いて、現地の様子が伝わりました。同時に中東の支援も息長く取り組んでいることに敬意を表します。(60代)
- こんな機会は大いに参加して、世界のみんなが幸せになることを祈ります。(70代)

『ラジオ・コバニ』 感想

- 自分は今まで遺体というのは親戚が亡くなった時ぐらいしか見たことがなく、また、きれいな状態でした。ですが映像では、四肢が離れていたり、小さい子供まで生で見たりする姿には強い衝撃を覚えました。戦争で友人が亡くなり、悲しい出来事を乗り越えていく姿には惹かれました。(10代)
- 戦争中の映像はよく目にしますが、戦いが終わった後のその戦場の復興や人々の精神状態のケアは、初めて見たのでとても興味深かったし、リアリティがありました。(10代)
- 「武器には武器でではだめ」ということは前提としつつ、コバニやウクライナで自分たちの家族や街を守るために武器を捕って闘わざるを得ないということにも共感します。そこに至るまでに外交努力を、と思うのですが、それが通じない時はどうなるのかとも思います。また、ISの子ども兵士を殺した兵士の言葉も重く、やはり戦争には勝者も敗者もないと感じます。すべての戦争被害者、難民への支援を！と思います。(60代)



ピースアクション 2022 in さが

～みんなで平和を考える1日にしよう～

- ★日時：8月4日（木） 10：00～12：00
- ★会場：アバンセホール （佐賀市天神3-2-11）
- ★主催：佐賀県生活協同組合連合会
- ★共催：佐賀県ユニセフ協会

<2022年度ピースアクション開催テーマ>

- ・核兵器禁止条約を力に全世界で核兵器廃絶をめざそう
- ・被爆・戦争体験を次の世代に語り継ごう
- ・世界中の子どもたちが安心してくらせる社会をつくろう



《佐賀県ユニセフ協会も募金活動とパネル展示で参加をしました》

■今年の夏、新型コロナ禍の中で中止されていた「ピースアクションinさが」が3年ぶりに開催されました。世界の平和を希求する佐賀県ユニセフ協会も壇上において【特別企画】「ウクライナに平和を」のテーマで「ウクライナ緊急支援」の募金の呼びかけを行いました。武力侵攻の中で、脅威や不安、さまざまな制限の中で暮らすウクライナの子どもたちの動画を見た、多くの皆様が「ウクライナ緊急募金」に協力をしてくださいました。

また、アバンセ西展示室でも「アグネス親善大使 ウクライナ訪問～忘れられた紛争～光のあたらない子どもたち～2018」のパネル展示を合わせて行いました。一日も早くウクライナ平和が訪れることを祈っています。

【「アグネス親善大使ウクライナ訪問」のパネル展示】



【ウクライナ緊急支援募金活動】

第31回 『佐賀市平和展』 ～語り継ごう、平和の尊さ～



【地雷レプリカの説明】



【ウクライナの動画とユニセフパネルの展示】



- ◇ 日時：8月5日（金）～8月9日（火） 10：00～19：00
- ◇ 会場：佐賀市立図書館 2階 ロビーギャラリー
- ◇ 内容：原爆資料・パネル展、松永文庫「戦争に縛られた大衆娯楽、劇団SA-GA「神風の詩」、遺族の語り部が語る、地雷ってどんなもの？

・今年は、終戦から数えて77年目になります。日本でも戦争経験者の方が少なくなり、戦争の悲惨さを伝え知ることがしだいに難しくなっています。

そんな中、世界では、今年の2月、ロシアがウクライナへ武力侵攻を始めました。激しい戦闘の様子や瓦礫と化す街の状況、ウクライナの人々の悲しむ姿などが毎日のようにテレビやネットや新聞で報道されています。今を生きる人々に、また、次世代を生きる子ども達へ『平和の尊さを語り継ぐ』ことの重要性を強く感じているところです。

- ・佐賀県ユニセフ協会では、今年は「地雷レプリ展示」「ウクライナの子ども達の様子の映写」「アグネス大使 大使ウクライナ訪問～忘れられた紛争～光のあたらない子どもたち～2018」のパネル展示を行いました。
- ・体験コーナーでは「自分たちにできるボランティア：使用済切手整理」に取り組んでもらい、きれいに整理した切手が、募金に繋がることの体験をしてもらいました。



【体験コーナー：使用済切手整理のボランティア】

unish の仲間たち!

長崎から佐賀県ユニセフ協会の活動に参加する社会人

松村 拓哉さん (49歳) —諫早市—



現在、諫早市にお住いの松村拓哉さん

子どもの頃、母親から「世の中には食事のできない子どももいる。ユニセフはそんな子どもたちを支援しているよ、食事は感謝して食べないといけないよ。」とよく聞いていました。

大人になって、ユニセフのHPで『100円で救える命がある』ということを知り、20代の頃からずっと今もマンスリーサポートを続けています。

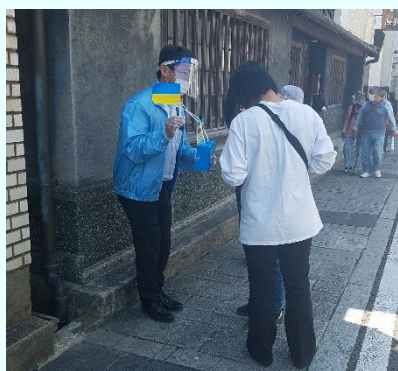
会社勤めで営業目標や競争に追われていた生活の中で、目標達成より大切なものがあり、それこそが人として大切ではないかと考えるようになりました。

転職と共に、ユニセフニュースなどを読むにつけて、そんな子ども達を支援するボランティアをいつかしたいと考えるようになりました。

今現実としては仕事もあり、できないけれどリタイアした時にいつか本腰を入れてボランティアをしたいと考えています。今は、時々、佐賀県ユニセフ協会のボランティア活動に、とても楽しく参加させていただいています。

◆ ボランティア活動デビューは、「有田陶器市での街頭募金活動」!

今年、3年ぶりに「第118回有田陶器市」が、4月29日(金)から5月5日(木)まで佐賀県有田町で開かれました。期間中7日間の人出は、約122万人。佐賀県ユニセフ協会では、今右衛門窯様のご理解とご協力により、玄関前で募金活動をさせてもらいました。



【「ウクライナ募金」の協力を呼びかける松村さん

ゴールデンウィークに初めて有田の陶器市で街頭募金の活動に参加することができました。コロナ禍であったため、2時間程度の短い時間ではありましたが、ウクライナ支援のためにたくさんの方々から多くの募金を集めることができました。募金を入れてくださる方々の美しい心に感動し、この募金で救われるウクライナの方々を想像し、嬉しく思い、参加して本当に良かったと思いました。



◆ 使用済み切手の贈呈や出前授業のサポート、街頭での募金活動にも参加されています。



【「使用済み切手」の寄贈を受ける佐賀県ユニセフ協会】

長崎県で仕事をされている松村さん。フレキシブルな勤務形態ということで、長崎方面でのユニセフの活動があるときは、勤務時間を調整して参加をされています。

← 諫早の社会福祉協議会からの「使用済み切手」20箱の贈呈式にも、自宅のお近くということで参加していただきました。

雲仙市立小浜中学校の『平和集会』の出前授業では、集会の後の地雷レプリカの展示品説明などお担当し、地雷で負傷する子ども達の辛い思いを伝えてくださいました。→

【8/9 小浜中学校『平和集会』後に、ウクライナ等の紛争地域に埋められている「地雷」レプリカの説明をする松村さん】



《松村さんからのコメント》

★私たちが平和な世の中で当たり前のように食事をし、教育を受け、生活を営んでいる中で、世界のどこかで戦争の恐怖に怯え、食べ物や水もなく、教育や医療を受けられない人々、子ども達がいます。このような状況について多くの方々に啓発し、募金を募るなどの活動を通じ、世界中の支援を行うユニセフの活動に参加することができ、とても嬉しく思っています。

これからも佐賀県ユニセフ協会の活動に積極的に参加し、勉強しながら支援の輪を広げていきたいです。また、長崎県にもぜひ広げていきたいと強く思います。

(原稿提供：松村拓哉さん 取材：江島きよ子)